

140字の読書界

地歴科有馬おすすめの「A I (有馬一押し) A I (人工知能)」本

- 1** 書名：人工知能は人間を超えるか [藤高蔵書 ○]
 著者：松尾 豊 (まつお ゆたか)
 発行：KADOKAWA

東大教授による人工知能、特にディープラーニングのガイドンス本。A I 研究の歴史をコンパクトにまとめながら、具体例が豊富に語られます。A I 発展の可能性について、上限値と期待値を冷静に見極める必要性を説くなど、ブームの中心にいるのに、ブームに乗ってないバランスのとれた本に感じます。



- 2** 書名：誤解だらけの人工知能 [藤高蔵書 ○]
 著者：田中潤・松本健太郎 (たなか じゅん・まつもと けんたろう)
 発行：光文社新書

人工知能の専門家と、データサイエンティストとの共著。インタビューを書き起こし、質疑応答形式で話が進むので読みやすいです。第2章「人工知能はこの先の社会をどう変えていくか？」では、4つの年代を切り取り、具体的に予測もしています。A I について知るなら、最初の一冊に向いていると思います。



- 3** 書名：人工知能の「最適解」と人間の選択 [藤高蔵書 ○]
 著者：NHKスペシャル取材班
 発行：NHK出版新書

社会に浸透した人工知能の実態を、Nスペ取材班が丁寧に追います。囲碁・将棋に加え、政治・司法・医療・交通などの各分野で、どのようなブレークスルーが起き、どのような問題が生まれているのか知ることができる本。私たちはすでに、人工知能に管理され、抜け出せない人生を歩んでいるのでしょうか。



- 4** 書名：人工知能が変える仕事の未来 [藤高蔵書 ○]
 著者：野村直之 (のむら なおゆき)
 発行：日本経済新聞出版社

分厚さに不安を覚える、500ページの大部です。研究とビジネス両方の第一線で活躍してきた著者だからこそ、説得力ある解説が続きます。全部は無理でも、第II部「人工知能が支える10年後のビジネス」を読めば、豊富な具体例を楽しめます。猫好きで、かつ暇な人は「なに猫？マッチング」で検索。

